

大阪教育大学附属天王寺中学校評価資料
—生徒、保護者、教師を対象とする調査結果—

令和5年3月

(1) 調査内容

調査は、生徒、保護者、教員を対象に実施し、次の内容について回答を求めた。

【生徒・保護者用】

- Q1 中学・高校の別
- Q2 性別（生徒の性別）
- Q3 学年
- Q4 組
- Q5 SSH 科目受講の有無（中学生は該当せず）

生徒：「学校のように、あなたの1学期から今までの学校生活を振り返ってどう思いますか」

保護者：「学校のようにお子さまの1学期から今までの学校生活をどう思われますか。」

1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：少し思う、4：思う

- Q6 私は学校に行くのが楽しい。(子どもは楽しく学校に行っている。)
- Q7 私は(子どもは)先生を信頼している。
- Q8 私は(子どもは)友人を信頼している。
- Q9 私は(子どもは)将来に目標を持ち、それに向けて努力している。
- Q10 私は授業をうけるのが楽しみだ。(子どもは楽しく授業を受けている。)
- Q11 私は(子どもは)予習復習や課題の提出などに普段から努力している。
- Q12 授業では深く考えたり探究的であったりするような課題が出されている。
- Q13 私は(子どもは)授業や学習において GIGA 端末など ICT 機器をよく活用している。
- Q14 私は(子どもは)グループで活動しながら学習するのが好きだ。
- Q15 私は(子どもは)心配や悩み事がある。
- Q16 私は困りごとや悩み事を相談できる相手がこの学校にいる。
(この学校には、自分の子どもが困りごとや悩み事を相談できる相手がいる。)
- Q17 私は社会のルールや、学校のルールをよく守って生活している。
(学校は社会のルールや、学校のルールをよく守らせようと取り組んでいる。)
- Q18 私は防災や安全に関心があり大切にしている。
(学校は防災意識や安全意識を向上させようとしている。)
- Q19 私は自分の心と身体の健康を保つよう意識している。
(学校は、子どもの心と身体の健康を保つよう取り組んでいる。)
- Q20 私は、お互いの人権を尊重している。
(学校は、お互いの人権を尊重するよう取り組んでいる。)
- Q21 私は(子どもは)家庭で学校のことをよく話す。
- Q22 私は私の保護者によく理解されている。
(私は子どもによく理解されている。)

【教師用】

- Q1 中学・高校の別
 Q2 性別
 Q3 学年
 Q4 組
 Q5 なし
 Q6 私は職場に行くのが楽しい。
 Q7 私は生徒から信頼されている。
 Q8 私は同僚を信頼している。
 Q9 私は生徒が将来に目標を持ち、それに向けて努力するよう指導している。
 Q10 私は学ぶ楽しさを意識した授業づくりを行っている
 Q11 私は生徒の学習習慣の向上を意識した指導を行っている。
 Q12 私は深く考えたり探究的であったりするような授業作りを行っている。
 Q13 私は授業中やその他の活動において生徒に ICT 機器をよく活用させている。
 Q14 私は、主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行っている。
 Q15 私は心配や悩み事がある生徒によく気がつく。
 Q16 私は生徒の困りごとや悩み事の相談をよく受ける。
 Q17 私は社会のルールや、学校のルールをよく守らせようと指導している。
 Q18 私は防災意識や安全意識を向上させようとしている。
 Q19 私は、子どもの心と身体の健康を保つよう取り組んでいる。
 Q20 私は、お互いの人権を尊重するよう取り組んでいる。
 Q21 私は保護者から信頼を得ている。
 Q22 私は生徒とその保護者の関係をよく理解している。

生徒・保護者及び教員ともに質問項目を、R1-R4 より変更し、3 者に同様の内容を問う項目に改めた。

(2) 回答者数

対象ごとの有効回答者数は下表のとおりである。

属性	性別			学年				合計
	男	女	無記不明	1年	2年	3年	無記不明	
生徒	191	200	10	133	126	139	3	401
(n=401)	47.6%	49.9%	2.5%	33.2%	31.4%	34.7%	0.7%	
保護者	185	176	2	136	107	119	1	363
(n=363)	51.0%	48.5%	0.6%	37.5%	29.5%	32.8%	0.3%	
教員	11	6	0					17
(n=17)	64.7%	35.3%	0.0%					
全体	387	382	12	269	233	258	4	764
(n=764)	49.6%	48.9%	1.5%	35.2%	30.5%	33.8%	0.5%	

(3) 学校生活にかかわる自己評価の（クロス集計）結果

Q6. 学校は楽しい

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	408	87.3
保護者	364	94.2
教員	17	76.5

保護者、生徒とも肯定的な回答の比率が9割ほどあり、生徒より保護者の方がその比率は高く、保護者の期待?が大きいことが伺える。教員は7割台で、少なからず楽しく働けていない教員がいる。

Q7. 先生を信頼(している・されている)

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	403	80.1
保護者	360	89.7
教員	17	88.2

生徒、保護者、教員の肯定的な回答の比率がそれぞれ8割、9割、9割と高いが、生徒の信頼度の中では低い。生徒の心情は大人と多少ずれているのか。

Q8. 友人(同僚)を信頼

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	407	89.9
保護者	363	94.8
教員	17	100

生徒、保護者、教員とも肯定的な回答の比率が9割以上あり、互いに信頼する関係にある。

Q9. 将来の目標・努力

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	406	68
保護者	364	65.7
教員	17	94.1

ほとんどの教員は目標を持つように指導しているが、生徒自身も保護者から見た生徒も将来について、まだ目標が定まっていない者が1/3ほどいる。

Q10. 授業が楽しい

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	404	67.8
保護者	362	88.4
教員	17	94.1

保護者、教員とも肯定的な回答の比率が9割程度あるが、生徒の約1/3は、授業が楽しいと思っていない。生徒の心情は大人と異なり、授業が楽しくないと感じる生徒がそれなりにいる。

Q11. 予習復習

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	405	76.3
保護者	364	81.3
教員	17	82.4

生徒、保護者とも、8割程度の生徒が予習復習に努力しているが、1/4の生徒がサボっていることを示している。

Q12. 探究的課題がある

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	406	91.9
保護者	363	93.7
教員	17	88.2

生徒、保護者とも、肯定的な回答の比率が、9割を越えている。探究的な課題が出されていることを生徒も認識している。

Q13. ICT 機器を活用

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	407	91.6
保護者	364	92.6
教員	17	76.5

生徒、保護者とも、肯定的な回答の比率が、9割を越えている。GIGA 端末などの ICT 機器の操作を含め、生徒は学んでいる。

Q14. グループ学習が好き

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	403	85.4
保護者	363	82.1
教員	17	88.2

生徒、保護者とも、肯定的な回答の比率が、8割を越えている。生徒もグループ学習が好きなようだ。

Q15. 心配・悩み事あり

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	402	51.5
保護者	363	25.3
教員	17	70.6

約半数の生徒に心配や悩み事があるのに対して、保護者はその半分(1/4)しか子どもに悩みがあるとは思っていない。悩みの程度にもよるが、保護者には悩みがあるようなそぶりを見せないでいる生徒が多いと思われる。

Q16. 相談相手

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	405	73.3
保護者	363	76.3
教員	17	52.9

生徒や保護者から見て、3/4の生徒には相談相手となる友人がいる。逆に言えば、1/4の生徒には相談できる友人がおらず、密な友人関係ができていない。

Q17. 社会や学校のルール遵守

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	405	90.6
保護者	363	91.5
教員	17	94.1

社会や学校のルール遵守に努めている割合は9割を越え、真面目な生活態度でいることがわかる。

Q18. 防災安全教育

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	404	78.2
保護者	360	85.3
教員	17	88.2

実体験がない中で防災や安全に関心を持ち続けるのは難しいと思うが、防災や安全に関心があり大切にしている生徒の比率は、8割程度ある。

Q19. 心と身体の健康

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	404	81.2
保護者	361	90.9
教員	17	100

心と身体の健康を保つよう意識している比率は、保護者は9割であったが、生徒は8割前後にとどまった。

Q20. 互いの人権を尊重

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	402	93.3
保護者	362	92
教員	17	100

互いの人権を尊重すると回答した比率は、生徒、保護者、教員とも9割を越え、人権についての高い理解が伺える。

Q21. 家庭で会話

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	405	71.9
保護者	362	79.6
教員	17	82.4

家庭で学校のことをよく話す生徒は、約7割、話すと感じる保護者は約8割である。3割の生徒は家庭であまり話していない。

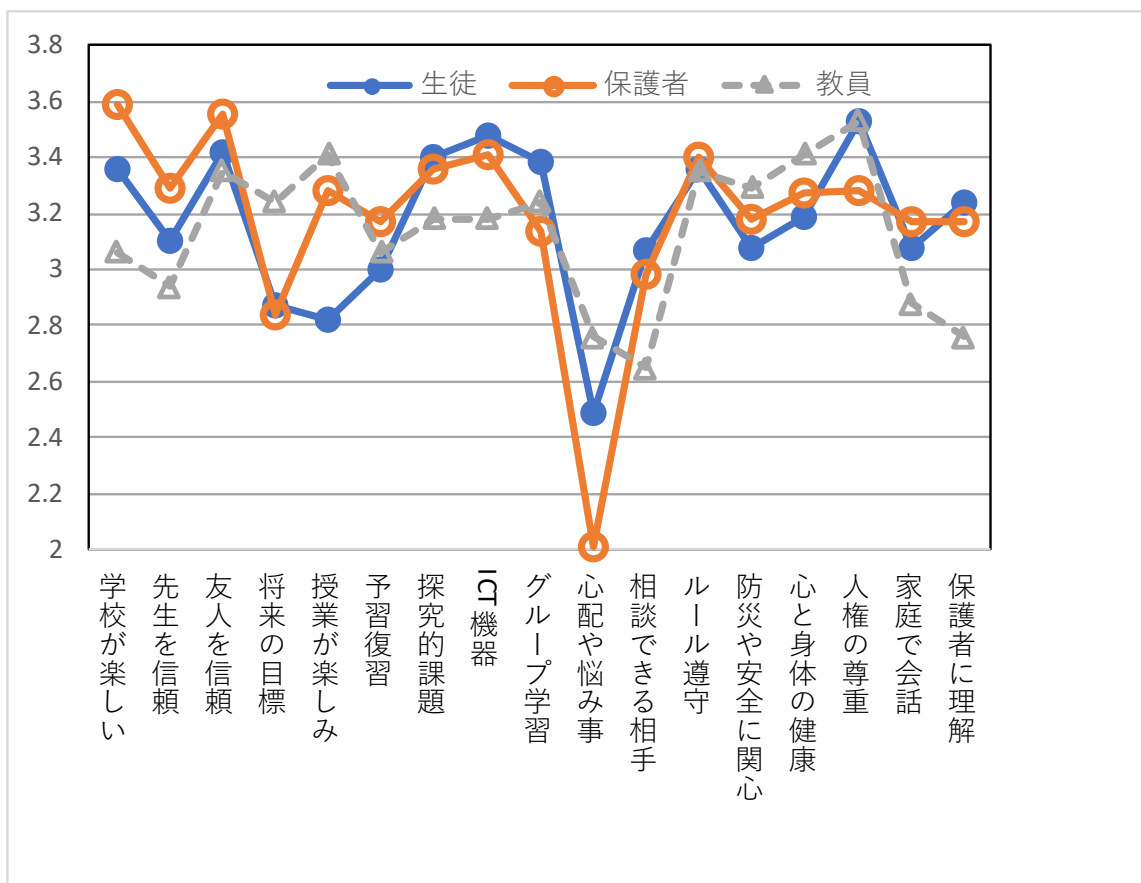
Q22. 保護者に理解

	回答数	肯定(そう思う。多少そう思う。)(%)
生徒	405	82.7
保護者	355	89
教員	17	70.6

生徒の8割以上が、保護者に理解されていると感じている。

(4) 学校生活にかかわる自己評価の比較

① 生徒、保護者、教員間比較

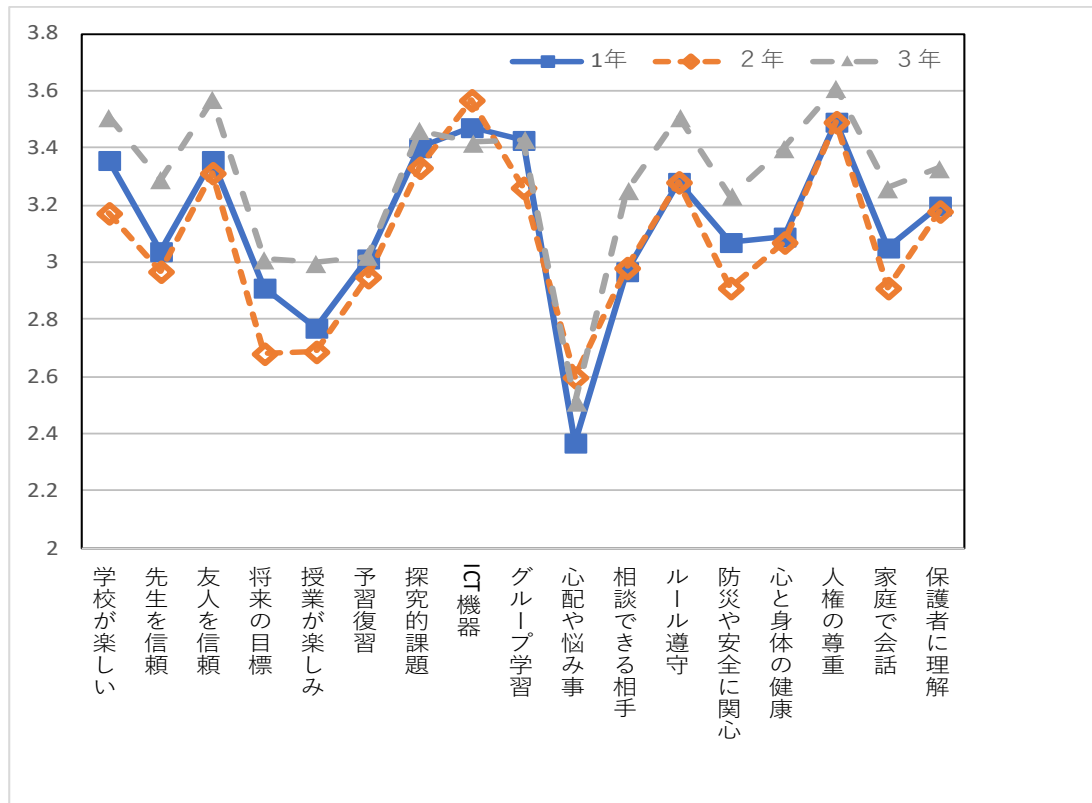


アンケート項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少そう思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、生徒、保護者、教員の各項目に対する回答の平均を算出した。

上記の各項目の平均値の生徒と保護者の間の差が大きいのは、「授業が楽しみ」「心配事悩みがある」「人権の尊重」の項目である。保護者が思っているほど「授業が楽しみ」ではなく、「心配事悩み」がないわけではなく、「人権を尊重」しないわけではない、ことがわかる。

	項目	生徒	保護者	教員
Q6	学校が楽しい	3.36	3.59	3.06
Q7	先生を信頼	3.1	3.29	2.94
Q8	友人を信頼	3.42	3.55	3.35
Q9	将来の目標	2.87	2.84	3.24
Q10	授業が楽しみ	2.82	3.28	3.41
Q11	予習復習	3	3.17	3.06
Q12	探究的課題	3.4	3.36	3.18
Q13	ICT機器	3.48	3.41	3.18
Q14	グループ学習	3.38	3.14	3.24
Q15	心配や悩み事	2.49	2.01	2.76
Q16	相談できる相手	3.07	2.98	2.65
Q17	ルール遵守	3.36	3.4	3.35
Q18	防災や安全に関心	3.08	3.18	3.29
Q19	心と身体の健康	3.19	3.27	3.41
Q20	人権の尊重	3.53	3.28	3.53
Q21	家庭で会話	3.08	3.17	2.88
Q22	保護者に理解	3.24	3.17	2.76

② 生徒の学年による比較



	項目	1年	2年	3年
Q6	学校が楽しい	3.36	3.17	3.51
Q7	先生を信頼	3.04	2.97	3.29
Q8	友人を信頼	3.36	3.31	3.57
Q9	将来の目標	2.91	2.68	3.01
Q10	授業が楽しみ	2.77	2.69	3
Q11	予習復習	3.01	2.95	3.02
Q12	探究的課題	3.4	3.33	3.46
Q13	ICT機器	3.47	3.57	3.42
Q14	グループ学習	3.43	3.26	3.43
Q15	心配や悩み事	2.37	2.6	2.51
Q16	相談できる相手	2.97	2.98	3.25
Q17	ルール遵守	3.28	3.28	3.51
Q18	防災や安全に関心	3.07	2.91	3.23
Q19	心と身体の健康	3.09	3.07	3.4
Q20	人権の尊重	3.49	3.49	3.61
Q21	家庭で会話	3.05	2.91	3.26
Q22	保護者に理解	3.2	3.18	3.33

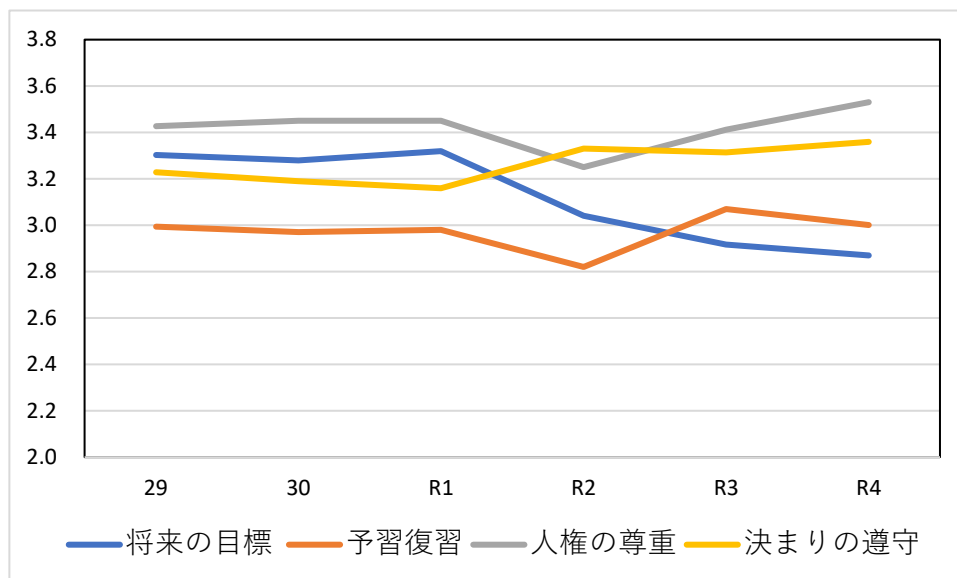
アンケート項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、各学年の生徒の各項目に対する回答の平均を算出した。

各項目の平均値を学年ごとに比較すると、3年生の値が総じて高く、年次進行に伴って意識が高くなっているのかもしれないが、1年と2年に年次進行のような差は見られないので、各学年の個性が元からそのようになっているとも考えられ、来年以降の比較検証が必要である。

③ 年度別推移

アンケート項目に対する回答（1：そう思わない、2：あまりそう思わない、3：多少思う、4：そう思う）を比率尺度とみなして、年度別の生徒の各項目(継続して調査している項目)に対する回答の平均を示した。

年度	29	30	R1	R2	R3	R4
将来の目標	3.30	3.28	3.32	3.04	2.92	2.87
予習復習	2.99	2.97	2.98	2.82	3.07	3.00
人権の尊重	3.43	3.45	3.45	3.25	3.41	3.53
決まりの遵守	3.23	3.19	3.16	3.33	3.31	3.36



継続してアンケートを実施している4項目について、平成29年から6年間の推移を図に示した。これら4項目の中で、コロナ禍の過去3年(R2～R4)に比率が大きく変化した項目は、「将来の目標」についてである。先行きの見えない不安な世相を反映しているのか、将来の目標を持ちにくい、努力できない、雰囲気を示しているのかもしれない。この傾向は、中高ともに見られた。